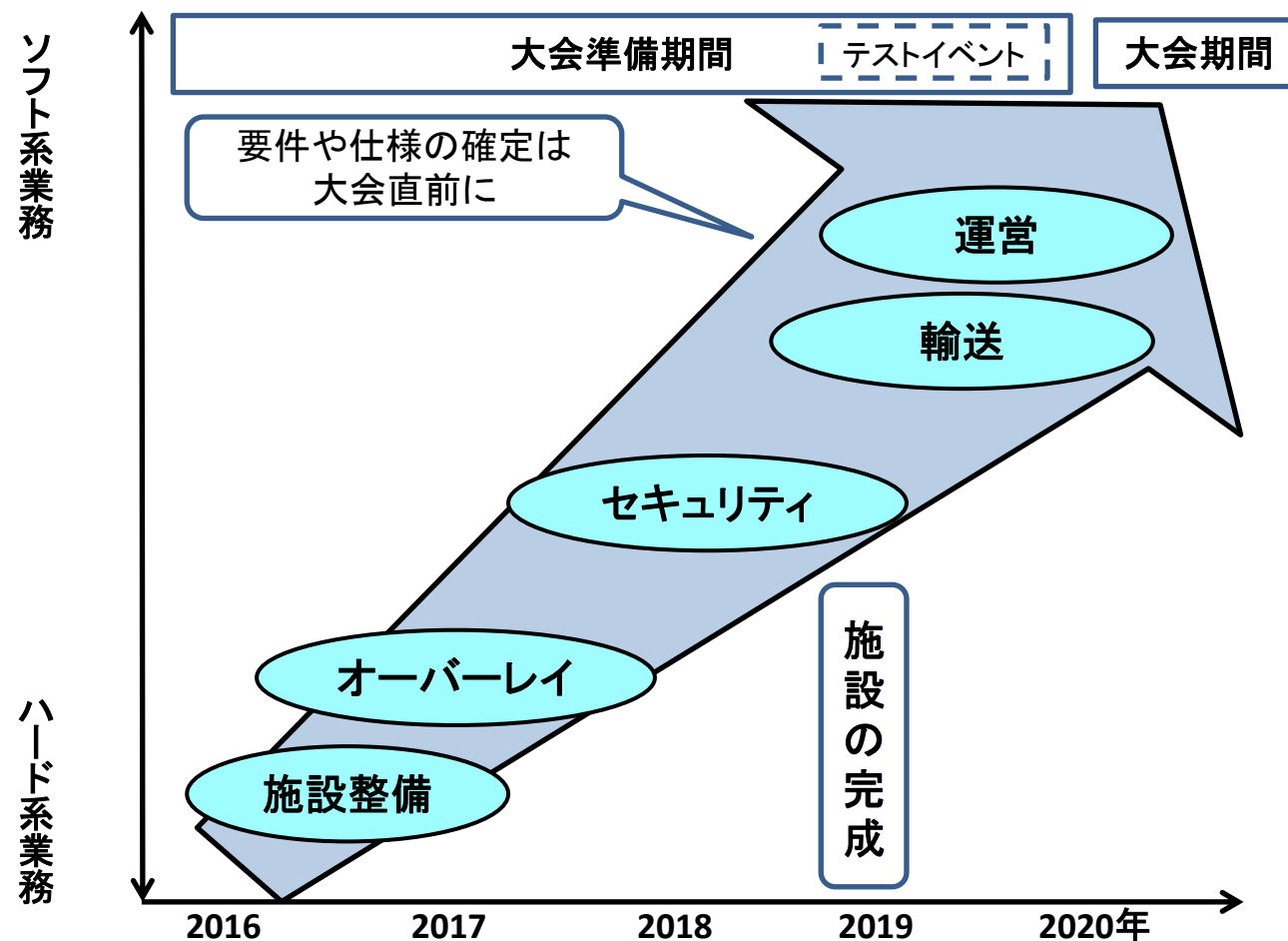


オリンピック・パラリンピック について

- ◆現在、恒久施設の整備などハード系業務は、既に設計・工事に入るなど事業が本格化。
- ◆一方、セキュリティや輸送対策、大会運営のオペレーションなどソフト系がメインの業務は、組織委員会や国、庁内各局等と連携・調整しながら、大会時の計画策定等を進めている段階。
- ◆このように、ハード系とソフト系とでは、経費の見積りに必要な要件や仕様を決定する時期が異なる。
- ◆したがって、具体化する大会準備全般にわたり、効率的かつ効果的な予算の執行（経費の支出）を行うには、適正な計画の策定（必要性の検証）、計画に基づく予算の編成（単価、規模の妥当性の精査など）、予算執行時における調達等の工夫（発注時の手法など）など、事業の各段階においてチェック体制を確立し、継続することが必要。

1 大会準備の具体化と業務の種類（イメージ）



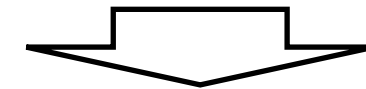
予算の状況

一定の想定の下での推計状態

順次精緻化し、予算に計上

2 チェック体制の確立

- ・施設整備などハード系業務は、テストイベントに間に合うよう行われるため、比較的早い段階で仕様（スペック）が確定。
- ・一方、セキュリティや輸送などソフト系業務は、大会準備期間の調達等だけでなく、大会期間中に実施されるため、要件や仕様の確定は大会直前に。



- ・計画策定、予算編成、執行（調達）の各段階において、適正なコスト管理の観点から、チェック体制を確立、継続することが必要。

- ◆ 計画策定段階では、各事業に対する戦略、必要性、仕様等の明確化・適正化が必要。
- ◆ 予算編成段階では、計画に基づき、目標とする予算（上限）を設定し、単価や規模（量、期間）の妥当性を精査の上、経費を積上げで積算するとともに、総額の枠の中で管理することも必要。
- ◆ 執行（調達）段階では、限られた予算の中で、発注時の手法など調達等の工夫を行うことが必要。
- ◆ いずれの段階においても、都、国、組織委員会等の各機関が、同一歩調で取り組むことが重要。

各段階での考え方

計画

戦略、必要性、仕様等の設定、明確化・適正化

(例) テストイベント

- ・実施時期、規模などの設定の仕方により、経費が大きく増減
- ・大会1年前、世界大会並みなどの従来の考え方を転換

予算

予算額の設定において、経費積上げとキャップ（上限）の両立

(例) キャップ設定、予算の「見える化」

- ・ロンドン大会を参考に、**キャップ（上限）**となる予算額を設定
- ・東京大会の会場、事業に即し、予算の「見える化」を推進

執行（調達）

限られた予算の中で、コスト削減のインセンティブが働く調達手法の選択

(例) 選手村

- ・都が大会期間活用する住宅や備品などの**大量一括発注**や**早期発注**など、**確実かつ効率的な調達**をモデルケースとして実施し、コストを削減

今後の取組

- ◎ オリンピック・パラリンピック準備局は、関係各局はもとより、国、組織委員会等とも緊密に連携して、関連する計画、予算、執行（調達）の各段階においてモニタリングを行うなど、**チェック体制を確立し、確実な予算管理を行い、大会準備に万全を期していく。**